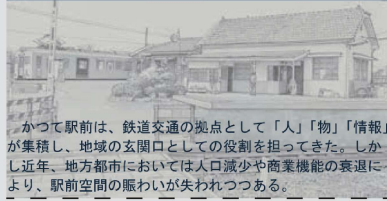
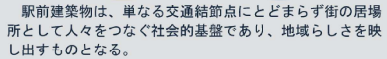


01 社会背景



かつて駅前は、鉄道交通の拠点として「人」「物」「情報」が集積し、地域の玄関口としての役割を担ってきた。しかし近年、地方都市においては人口減少や商業機能の衰退により、駅前空間の賑わいが失われつつある。



駅前建築物は、単なる交通結節点にとどまらず街の居場所として人々をつなぐ社会的基盤であり、地域らしさを映し出すものとなる。

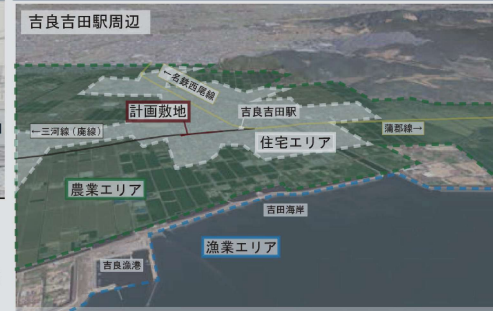
04 建築提案

■一本の木を建築に織り込む
吉良町に根ざした風景を生み出すために、地域素材を活用し、無駄がないように建築する。

20m~25m 3番玉 φ20cm~30cm
→下地材・挽き板・チップ
10m~20m 2番玉 φ30cm~50cm
→垂木・間柱・内装材・家具材
5m~10m 1番玉 φ40cm~60cm
→梁材・管柱・床板
0m~5m 元玉 φ50cm~70cm
→柱・梁桁・登り梁・構造材

含水率が高い → 内部ルーバー
含水率が中 → 外部ルーバー
含水率が低い → 柱材
不適材 → 合板・造作材

02 計画敷地 / 愛知県西尾市吉良町吉田船戸5



計画敷地は愛知県西尾市の西部に位置し、三河湾沿岸の自然と文化に根ざした暮らしを背景のある吉良町駅を対象とする。温暖な気候と海の恵みにより漁業や塩づくり、農業など多様な生業が営まれた地域である。

03 駅前課題



かつて吉良吉田駅は、名鉄西尾線・蒲郡線・三河線が交わる交通結節点として栄え、駅前には人や物が行き交う活気ある風景が広がっていた。鉄道は漁業や農業の収穫物を運ぶ手段であり、住民や観光客が自然に集う憩いの場でもあった。しかし、自動車交通の発展や利用者の減少により、三河線は廃線となり放置され、無断駐車が多発している。さらに蒲郡線も廃線の危機に直面し、現在は地域拠点として最小限の役割を残すのみとなっている。

